

さんざし 山楂子

東京栄養士薬膳研究会会報2012. 3月号

- 1 巻頭言
- 2 活動報告 —新年会報告—
- 3 4 講師薬膳研究会報告
- 5 今後の活動予定 クラス紹介
- 6 薬膳とわたし



Vol.2 No.4



国際薬膳師について

東京栄養士薬膳研究会 代表 海老原 英子

来る4月14日(土)・15日(日)の二日間、国際薬膳師の試験が実施され、本会から30名ほどが受験されます。受験する方々は、「国際薬膳師資格取得セミナー」において、2年間で20回の研修で中医薬膳の専門家になるために必要な「中医学の沿革と栄養薬膳学」を8時間、「中医学」44時間、「食薬学」14時間、「方剤学」8時間、「弁証施膳学(薬膳)」26時間、合計100時間学びます。講師は本草薬膳学院長辰巳洋先生で薬膳分野の第一人者で多くの専門家を養成しています。教科書は先生が書かれた「実用中医学」「中医薬膳学」「食薬学」の3冊の本を使用します。先生は理論的で系統的に分かり易く広いボードを使って丁寧に板書しながら教えてください。2年間のノートは薬膳を勉強する上で貴重な財産になるでしょう。今、受験するみなさんは忙しい仕事の中、時間をみつけて猛勉強をしています。傍から見ていてほんとうに気の毒に思うほどです。どうか健康に留意されて無事試験を受けて資格を取得していただきたいと願っています。

実は私も2000年に第1回国際薬膳師試験を61歳で受験しました。北京中医薬大学日本分校で学んでから2, 3年経っていて中医学や薬膳のことも忘れかけていましたし、国際薬膳師という資格も初めて聞きましたので、あまり関心がありませんでした。辰巳先生からの強い勧めもあって試験勉強を始めました。ところが学校で使った教科書も当時の私にはさっぱり理解できず、暗記しようとしても全然覚えられず、勿論試験の問題集も回答できません。今までの仕事の経験など少しも役に立ちません。私は劣等感で鬱状態になり、試験を断念しようと幾度も思いました。しかし、真面目にコツコツと地道に生きてきた半生を途中で棄権することもできず、葛藤しながらの受験でした。どうか資格をいただくことができ、その時の「よかった」という喜びは、薬膳を続ける今の私の原動力になっています。

後で知ったことですが、国際薬膳師資格を発行している中国薬膳研究会は中国薬膳分野で

最高権威の研究会で、中国国家中医薬管理局に属する一級学会であるということです。

現在、薬膳に関心を持ち勉強を始められた管理栄養士・栄養士の方は、専門分野で活躍されているながら、なお薬膳の専門家を目指し、中医学や薬膳学の勉強を本格的に学びたいと意欲を持っておられます。しかし、日本では国際薬膳師資格取得の試験のようにしっかりと勉強する正規の教育機関はまだありませんので、日本にある中国の中医薬大学の認定校で高額の授業料を払って教育を受けることとなります。本会が主催する国際薬膳師セミナーは、辰巳先生のご厚意で質の高い薬膳教育を実施している貴重な存在であると考えます。

ところで中国伝統医学は、文献の記録から見て4000年の歴史があるといわれています。中医学と古代中国哲学とは密接な関係があり、中医学を理解するためのキーポイントは古代中国哲学思想の陰陽五行学説に対して理解を深める必要があります。また、整体観念および弁証論治という中医学独特の考え方と診断・治療体系があり、すべての医療保健思想に貫かれています。哲学思想という目に見えない中医学理論は、科学分析の数値や画像診断を重視する現代医学とは根本的な違いがあります。長期におよぶ疾病治療の経験から得た莫大な中医学の思考方法を十分に理解するためには、時間かけて学ぶ努力が大切になります。そして机上の学問とするのではなく、実践することによって抽象的と思われた中医学理論が非常に具体性をおびてきます。薬膳の健康効果が大きいと期待されるわけです。

国際薬膳師の方は100名近くになります。今まで学んだ中医薬膳学の知識を十分に活用して国民の健康保持と増進・疾病予防のために貢献していただきたいと願っています。

第6回国際薬膳師資格取得セミナーを6月から主に第4土曜日に開催しますので、専門的に勉強をしたいと希望される方はお申し込みください。